

所報

No.129
令和元年10月21日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail:center@tym.ed.jp(代表)
URL:http://center.tym.ed.jp/

目次

- 今年も磨く、己を磨く …………… 1
- 夏の研修を振り返って …………… 2・3
- センター事業より …………… 4
- 塵も積もれば518枚 …………… 5
- 随想 …………… 5
- 連載「知って得2019」 …………… 6

今年も磨く、己を磨く

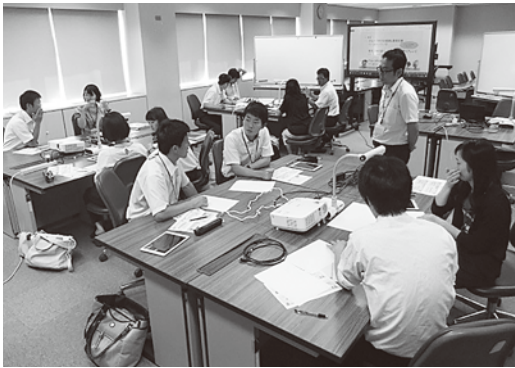
教育研修部



新任教務主任研修会 8月5日
班別協議「教務主任としての役割と取組」



6年次教職員研修会 7月2日
講義「人間理解を深めるコミュニケーション」

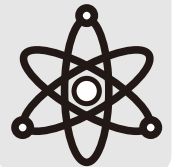


授業力向上のためのICT活用研修会 7月31日
「タブレット・実物投影機を活用した授業づくり実践」



理科教育講座(実験)知りたい身に付けたい
小学校理科実験の基礎・基本 7月26日
「水中の小さな生き物の観察」

科学情報部



教育相談部



特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり講座
8月6日 協議「授業改善の実際」



学校カウンセリング講座
(人間関係づくりコース) 8月6日
演習「学級集団の状況に合わせたプログラム作り」

夏の研修を振り返って

教育研修部

外国人児童生徒教育実践講座

— 外国人児童生徒と保護者へのよりよい支援を考える —

- ◆日時 令和元年7月29日(月)
- ◆講師・指導助言者 富山県教育委員会小中学校課指導主事
指導助言者 西部教育事務所外国人支援員
- ◆報告・演習・協議
- ◆内容

前半は、外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修の報告を聞いた後、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント(略称:DLA)」の演習を行った。後半は、適応指導や保護者対応について情報交換をし、よりよい支援についてグループ協議をした。最後に、保護者への連絡方法や児童生徒への対応についての留意点等を具体的に助言していただいた。児童生徒が疎外感をもたないようにすることや、いろいろな立場の人が児童生徒の状況を共有して対応していくことの大切さ等を学んだ。



受講者の声

- 外国人児童対応の授業づくりを初めて知りました。教科の指導目標に加え、日本語教育の指導目標があり、その子に身に付けさせたい力がより明確になるのでよいと思いました。(小学校教諭)
- DLAを初めて知り、演習で体験してみて、自分が関わっている学級でも生かせることがあったら参考になりたいと感じました。(特別支援学校教諭)
- 教師は異文化の理解やコミュニケーションの取りにくさに困難を感じていますが、外国人の保護者や子供たちはもっともっと大変な思いをしているので、理解してよりよい関係をつくっていきたいと思いました。(小学校教諭)

科学情報部

児童生徒のICT活用の充実と情報モラル指導研修会

— 児童生徒のICT活用コース —

- ◆日時 令和元年8月1日(木)
- ◆講師 東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生
氷見市内小学校教諭
富山市内小学校教諭
- ◆受講者 小学校19名、中学校6名、
高等学校5名、特別支援学校3名
- ◆内容

県内でICT活用に積極的に取り組んでいる2名の先生から、授業実践事例を通して、ICT活用の意義や利点およびICT活用に関して大切なポイントの報告があった。高橋先生からは2名の授業実践を基にしたICTを授業で活用する際の大切なポイントのまとめと、さらに学習指導要領が目指している資質・能力とICT活用の関わりを解説いただいた。

◆研修講師より

- ICTを活用することで、個の学びを深めることができ、協働での学びを支えることができる。
- ICT活用のポイントとして、児童生徒が本気で課題に立ち向かっていくような「問い」や「視点」をもっていることと、学習過程を理解して、ICTの使い方を授業者が選んでいることが大切である。
- 授業デザインが重要である(学習目標、学習内容、学習方法、学習形態等)。
- 知識及び技能を身に付けさせる授業から、思考力・判断力・表現力等を活用させる授業へ、最終的には学びに向かう力・人間性を涵養する授業にしていく必要がある。
- 知識だけでなく、活用手段(言語活動や思考活動等)を増やす。
- 知識の質を高め、見方・考え方を働かせ、構造化して、「感覚的に分かる」へつなげる。



受講者の声

- ICTをただ使うだけでなく、児童生徒にどのような力が必要かを考え、その力を身に付けさせるための手段としてICT活用があることを改めて痛感しました。
- 主体的・対話的で深い学びのある授業の実現に向けて、ICTを使うことにどのような意味があるかを学ぶことができました。

学校カウンセリング講座（教育相談スキルアップコース）

— 面接・面談の態度 —

- ◆日時 令和元年6月27日（木）
- ◆講師 金沢大学 准教授 原田 克巳 先生
- ◆演題 「面接・面談の進め方」
- ◆内容

- 面接・面談では、児童生徒の言葉だけではなく、態度やそぶり、声の調子や表情等にも注意を向ける。話の腰をおらず、そして、語りきるまで自分の解釈や助言、指示を差し挟まずに聴ききる。沈黙を破らない。間を詰めず余韻を大事にする。また、一度で結論、解決に至ろうとせずに「またいつでも話しにいらっしゃい」「また一緒に考えるよ」ということを伝える。
- 面接・面談の前には児童生徒の情報を共有することが大切である。`わたし（教師）`が見た児童生徒の姿は、児童生徒の一側面でしかないという自覚をもち、多くの教師から見た児童生徒像をつなぎ合わせて、多面的・総合的理解を図る。

◆演習「保護者との面接」

- 保護者はどのような気持ちで担任に相談しに来るかを想像し、グループで話し合った。また、モデル事例をもとに担任とのやりとりから児童生徒の状況を捉え、保護者の言葉の背後に隠れている気持ち（喜び、期待、不安、心配、怒り、焦り等）を想像し、担任としての面談の方向性について考えを出し合い、ロールプレイを行った。

受講者の声

- 面談に臨む保護者の気持ちをじっくり考える機会になりました。子供がよい方向、望むべき方向に進めるように保護者と協力できる関係を築いていきたいです。（小学校教諭）
- 原田先生の「言い方で伝わり方は変わる」という言葉が印象に残っており、教師として、人として自分の話し方や言葉にしっかりと目を向けようと思いました。（中学校教諭）
- ロールプレイの担任役では、話をじっくりと聴こうと思いながらも、解決策を提示したり、自分の考えを話したりする自分に気がきました。今後は生徒の気持ちや考えを大切に、生徒の力を信じて面談に臨みたいです。（高等学校教諭）



発達障害教育研修会

— 気になる子供の理解と対応 —

- ◆日時 令和元年8月19日（月）
- ◆講師 神戸大学 教授 鳥居 深雪 先生
- ◆演題 「ライフステージに応じた指導・支援の在り方 ～幼児期から青年期まで～」
- ◆内容

- 幼児期から青年期までの各ライフステージにおける発達の特徴やそこで見られる発達課題に、どのように支援していけばよいか具体例を交えてお話しいただいた。
- 発達障害への支援については、環境因子と個人因子を包括的に捉えて、考えていくことが必要である。
- 自分にはどのような支援が必要なのか（自己理解）、環境をどのように調整したり、物や支援を手に入れたりすればよいか（援助を求める力）を本人が理解できるようにすることが大切である。

受講者の声

- 入学前から入学後、将来のことまで考え、どこまでできるようになると、その子にとってよいのかを考えていかなければいけないと思いました。（小学校教諭）
- 効果的な支援に向けて、多くの知見を紹介してもらえたので、学校で明日からの支援につなげたいと思いました。（高等学校教諭）
- 「周りに助けを求めることができる力」を付けると同時に、助けを求めやすい雰囲気をつくっていきたいと感じました。（特別支援学校教諭）



センター事業より

新規招致外国青年への富山オリエンテーション

新規に来日するJETプログラム招致の外国青年（外国語指導助手と国際交流員）は、来日直後に東京での研修を受講した後、それぞれの県に配属されます。その後、富山県では「勤務及び生活に役立つ知識や情報等を提供すること」を目的とし、3日間の富山オリエンテーションを実施しています。

◆**日程** 令和元年8月9日（金）辞令交付式（県立高等学校のみ）、及び全体研修
8月22日（木）地区別研修、8月23日（金）立山研修

◆**受講者** JETプログラム新規招致外国語指導助手23名、新規招致国際交流員5名
8月9日のみ日本人外国語担当教員21名（小学校3名、中学校8名、高等学校10名）

◆**内容** 初日は、ALT（外国語指導助手）の勤務校の外国語担当教員も参加し、新規ALTとのコミュニケーションを図りました。小中高それぞれのワークショップで先輩ALTがリーダーとなりTT授業や学校生活についてアドバイスをしました。2日目は、4地区の会場に分かれ、同地区内の外国青年同士の親睦を図りながら、地域や学校生活についてより詳しい情報を提供しました。最終日の3日目は、「富山の自然と歴史を学ぶ」というテーマのもと立山研修を行いました。バスで室堂まで移動した後、雄山登頂、一の越登山、室堂周辺散策の3つのグループに分かれ研修しました。直前まで雨が心配されていましたが、当日の室堂は雲の隙間から青空が見えるほどで、雄大な自然を満喫することができました。



1日目「学校生活について」
担当教員からのアドバイス



1日目「TT授業について」
先輩ALTからのアドバイス



3日目 立山研修 室堂平にて記念撮影

サイエンスカー訪問活動

— 楽しい！おもしろい！観察・実験 —

科学情報部では、科学技術教育普及活動の一環として「サイエンスカー訪問活動」を行っています。この活動は、希望する小学校を対象に、理科工作や観察・実験を行うものです。今年度も各種実験機材を積んだサイエンスカーが県内を走り、ユニークな活動を展開しています。

◆**対象** 児童数120名以下の県内小学校

◆**期間** 5月上旬から12月中旬

◆**内容**

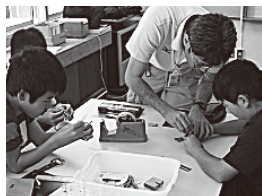
（低学年）しゃぼん玉遊び、空気遊び等

（中学年）小さな生き物の観察、電気遊び

（高学年）簡易モーターづくり、バーチャル火山噴火



小さな生き物の観察



簡易モーターづくり

- ・「みるべー」を使って虫の観察をしました。実物が動くところも見えるので楽しいなと思いました。家でもいろんな生き物を観察してみたいと思います。（小学生）
- ・授業でやっていなかった実験をして、えんぴつのしんにも電気が通ることを初めて知ってびっくりしました。（小学生）
- ・普段の学習ではできない活動に子供たちは目を輝かせて楽しんでいました。（教諭）
- ・昆虫探しの言葉かけや観察での視点は、私たち教員も学ぶよい機会となりました。（教諭）

保護者との良好な関係づくり研修会

◆**日時** 令和元年8月5日（月）

◆**場所** 富山県総合運動公園陸上競技場会議室

◆**受講者** 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員

◆**内容**

- 共栄大学教授 和井田節子先生から「保護者との良好な関係づくり」という演題で、講義・演習を行った。保護者の願いは、我が子の心身ともに健やかな成長である。そのためには、問題が発生したときに、問題を保護者と協調的に解決することを目指すことが大切である。
- 「我が子の写真が1枚しか掲載されていない卒業アルバムを作り直せ」という保護者の要求について、面接のロールプレイを行った。問題の本質は、普段からの我が子への対応である。普段から我が子をあまり気に留めてもらえなかったが、卒業アルバムでもこのような扱いであるという保護者の思いを受け止めた上で、学校では、子供の様子をしっかり見ていたことを伝える必要がある。

受講者の声

- 「もめにくい対応の仕方」の動画が分かりやすかったです。原因探しをするのではなく、解決策を一緒に探していくことが最も大切であることが分かりました。（小学校教諭）
- ロールプレイでは、母役の担当でした。演じている中で、実際に母の悲しさや怒りがこみ上げてきました。教師側の立場で考えるより、より気付きや学びがあり、よい経験ができました。（特別支援学校教諭）



塵も積もれば518枚 ～徒然なるままに書き留め～

研修顧問 山崎 弘一

4年前の6月から書き始めた今日の言葉「今日」という日に 読んだことや見たり聞いたりしたことを感じたままに 思ったままに 一枚一枚書き留めてきた 今数えてみれば518枚「塵も積もれば山となる」を実感する

(某年某月某日) 過去のことや先のことをずっと気にしていても仕方がないこと「今」に過去はない「今」に未来もない そもそも人は「今」しか生きられない 今を生きていけば やがてそれが過去になり未来につながる 過去や未来に悩むのは必要以上に難しく考えてしまうからなのかもしれない 何事も難しく考えれば難しくなるもの「今」において生き生きとしていけば 困難も案外容易に乗り越えられるものだ 行く手に山があり谷があればこそ楽しみもあると 単純に考えればよいと思うのだが…

(某年某月某日) 月が現れると人は月が昇ったと言う 月が隠れると人は月が沈んだと言う しかしながら 月は常に或る所に居るのであり 昇沈するように



見えるだけなのである 人が夜道を歩く時 どこまで行っても月は人に追従し 常に白く輝いて見えるけれども月は常に或る所に居るのであり 追従するように見えるだけなのである 月は唯一不変の存在なのだが 月を見る人によっては異なる月となって見えるもの とかく自己本位で物事を捉え考えがちな人間 自分を悲劇の主人公と思いがちな人間 月の真の姿を見ようとすることが必要か…

(某年某月某日) 最近よく使われる言葉に「忙しさに感けて」がある そもそも「感ける」とは どんな意味なのか 第一に「愚痴を言う」とか「嘆く」という意味 「日も暮れて飯はまだかと妻に感けて」と言う 第二に「心が動く」とか「感心する」という意味 「白梅の香りに感けてしばしたたずみ」と言う 第三に「そのことにかかりきりになって他を顧みる余裕がなくなる」という意味 「初孫の世話に感けて読書もできず」と言う とすれば「忙しさに感けて」と言うのは変である 「<忙しき>さんに愚痴を言う」「忙しさに心動かされる」「忙しさにかかりきりになる」というのは可笑しい 忙しきは美德なのか…



気温の上昇

科学情報部長 大浦 栄治

今年も、全国各地いろいろなところで大雨や台風の被害が発生している。近年使われだした、ゲリラ豪雨やゲリラ雷雨から線状降水帯などの新しい言葉も定着してきている。1時間に100mmの雨や、瞬間最大風速60m/sというとんでもない数字も、だんだん慣れてきてしまっていて驚かなくなった。

地球の温暖化、特に海水温の上昇が大きな影響を及ぼしていることは容易に想像できる。温度が高いほど持っているエネルギーは大きい。勤め始めのころは、最高気温といっても33℃か34℃くらいだったような気がする。今では毎年のように、40℃という言葉が出てくるようになった。海水温の上昇の関係で、台風も日本近海まで発達し続け920hPaなどというものまで見るようになってきている。強い勢力のまま上陸するようになったため、瞬間最大風速も観測以来の最高記録を更新することが多くなった。

天気や気候については観測技術や予想の精度はずいぶん上がっているのだから、避難の指示等は早めに出るようになってきているような気がする。昔に比べると、建物等も頑丈になり、治水等についてもずい

ぶんよくなってきていると思うのであるが、崖崩れや水害等には対応は難しく、自然の強大化についていけていないようで、危なければ早めに避難するしかないようである。

このまま気温の上昇は続いていくのだろうか。「今日の最高気温は45℃です」とか、「日中は冷房をつけて建物から出るのを控えてください」などという時代がやってこないとも限らない。そのとき停電にでもなって冷房が止まったりするととんでもないことになりそうである。

人間の適応能力もたいしたものなので、徐々に変化していくのであれば慣れていくのかもしれないが、日本が四季の彩りが豊かで季節の食材が手軽に楽しめる住みやすい国であり続けられるよう願うばかりである。



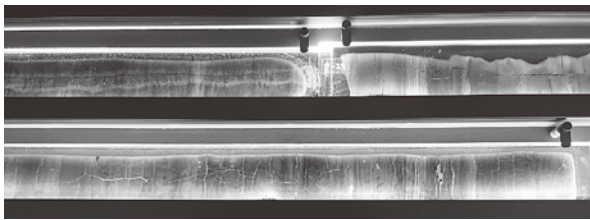
Science
Cafe

年縞博物館に行ってきました

科学情報部 主任研究主事 寺崎 清光

「年縞（ねんこう）」という言葉をご存じですか。年縞とは、長い年月をかけて湖の底に積もった縞模様の堆積物のことです。福井県年縞博物館には、三方五湖の1つ、水月湖の年縞が展示されています。この年縞は、7万年前から現在まで、途切れることなく連続している世界一の年縞です。

水月湖は、年縞が形成される環境として「奇跡」と言われるほど理想的条件の整った湖で、しかもその条件が維持され続けたことで、美しい年縞を形成したのです。



展示されている年縞の一部

年縞の重要性は年代測定にあります。生物の遺骸、文化財等がいつの時代のものかを知る手段として「放射性炭素（¹⁴C：炭素14）年代測定法」があります。ただこの測定法では、時代によって数百年から数千年のズレがありました。このズレを修正するためには、



福井県年縞博物館

「年代ごとの正確な炭素14の量」がきちりと整った「ものさし」が必要です。この「ものさし」となるのが年縞です。年縞は1年に1層形成されるため、いつの年代のものなのか正確に分かります。その年縞に含まれる葉の炭素14の量を測定することで、正確な年代と炭素14の割合の関係が明らかになるのです。そういう意味で、水月湖の年縞は、世界中の文化財や化石等の年代測定の精度を飛躍的に向上させ、国際標準として価値を高めています。

皆さんも一度、年縞博物館で実物の年縞を見ながら7万年の歴史を感じてはいかがでしょうか。

参考 福井県年縞博物館

<http://varve-museum.pref.fukui.lg.jp>

教育相談

トーンを合わせる

教育相談部 客員研究主事 舘野 智子

どこか物悲しい音楽が心地よい季節になりました。ここ教育相談部の仕事は、夏場になると、相談に加え、教職員を対象とした研修や講座があり、何かに追い立てられているような日々が続きます。そのピークを過ぎた今、温かく深みのあるクラシックを聴くと、音の広がりと共に、呼吸が整い、身体の緊張がほどけていきます。

カウンセリングでは、相談者の声のトーンに合わせることを大切にしています。声のトーンとは、高い低いだけでなく、大きさや上げ下げ、話す速さやテンポも合わせた全体的な雰囲気を目指します。初めは、互いに探り合うような感じで相手の反応を見ながら慎重に話を進めます。楽しい話とつらい話では、相づちの打ち方も違います。余りにハイテンションな相づちで、相手を驚かせてしまっては元も子もありません。安心して自分自身の内側と向き合い、感情を表現してもらうために、できるだけ落ち着いたトーンでゆったりと言葉を返すよう心掛けています。



カウンセリングを続けていると、声のトーンや表情、しぐさから相談者の思いや感情の変化を感じることがあります。長い間、来所していたお母さんもその一人でした。初めの頃は、蚊の鳴くような声で恐る恐る話され、「私は、アドバイスしてほしいタイプなんです。何でも言ってください」と意見を求められました。相手の依存心を高めてしまわないよう適度な距離を保つ必要性を感じました。私の心には、警戒心が芽生えていました。それでも、お子さんを取り巻く問題について、丁寧に考えて行動していく中で、自分の考え方やものの捉え方に自信を深めていかれました。来所の度におしゃべりになり、背筋がピンと伸びていったのです。

最後の数回は、高めのよく通る声で軽やかに話し続けられました。「うん、うん」とうなずきながら耳を傾けていると、穏やかな気持ちになり、ふと口角が上がりました。その声はまるで音楽のようでした。